



## サーバのライフサイクル

- [サーバの検出とアクション](#) (1 ページ)
- [サーバインベントリの表示](#) (5 ページ)
- [ハードウェア互換性リスト \(HCL\) との準拠](#) (8 ページ)

### サーバの検出とアクション

シャーシまたは FEX が検出されると、シャーシに接続されたブレードサーバまたは FEX に接続されたラックサーバが自動的に要求され、検出されます。[シャーシおよび FEX のディスクバリと操作 (*Chassis and FEX Discovery and Operations*)] では、このプロセスに関する情報を提供します。サーバを要求して検出するには、工場出荷時の状態になっている必要があります。

ファブリック インターコネクタに直接接続されているラックサーバの場合は、ファブリック インターコネクタの要求後に次の手順を実行します。

1. サーバポートを両方のファブリック インターコネクタに接続します。たとえば、ポート 1 と 2 を FI-A に、ポート 3 と 4 を FI-B に接続します。
2. 両方のファブリック インターコネクタのサーバポートを構成します。

検出されたサーバは [サーバ (Servers)] ページに表示されます。

#### サーバの操作

サーバアクションを使用すると、サーバを管理できます。Cisco Intersight で [サーバ (Servers)] をクリックすると、[サーバテーブル (Servers Table)] ビューが表示されます。[サーバテーブル (Servers Table)] ビューページで、省略記号 (...) アイコンをクリックしてサーバアクションを実行します。

[サーバアクション (Server Actions)] : サーバを管理するために次の操作を実行できます。

- [電源 (Power)]
  - [電源オン/オフ (Power On/Off)] — サーバの電源をオン/オフにします。
  - [電源サイクル (Power Cycle)] : サーバの電源をオフにしてからオンに戻します。

- [ハードリセット (**Hard Reset**) ] : サーバを再起動します。
- [OS のシャットダウン (**Shut Down OS**) ] : オペレーティングシステムでサポートされている場合、サーバをシャットダウンします。
- [システム (**System**) ]
  - [ロケータをオン/オフにする (**Turn On/Off Locator**) ] : LED ロケータをオン/オフに切り替えます。
  - [CMOS のリセット (**Reset CMOS**) ] : BIOS 構成設定を元の状態にリセットします。これにより、サーバが正常な状態でない場合の回復に役立ちます。CMOS をリセットするオプションは、サーバの電源がオフの場合にのみ表示されます。リセットを完了するには、サーバの電源をオンにする必要があります。[CMOS のリセット (**Reset CMOS**) ] 確認ウィンドウにあるトグル ボタンを使用して、サーバの電源をオンにする追加オプションがあります。




---

(注) このオプションは、Intersight 管理モードのサーバでのみ使用できます。

---

- [フロントパネルのロック (**Lock Front Panel**) ] : サーバの物理的な電源ボタンをロックします。フロントパネルがすでにロックされているサーバの場合、このオプションは [フロントパネルのロック解除 (**Unlock Front Panel**) ] と表示されます




---

(注) このオプションは、Intersight 管理モードのサーバでのみ使用できます。

---

- [再検出 (**Rediscover**) ] : サーバとそのサーバのすべてのエンドポイントを再検出します。
- [解放 (**Decommission**) ] : サーバを解放し、Cisco UCS 設定からサーバを削除します。ただし、サーバのハードウェアは Cisco UCS インスタンスに物理的に残っています。
- [シスコ IMC の再起動 (**Reboot IMC**) ] : Cisco IMC を再起動します。
- 証明書 :
  - [KMIP クライアント証明書の設定 (**Set KMIP Client Certificate**) ] : KMIP サーバと Cisco IMC 間の安全な通信を確保するために KMIP クライアント証明書を設定します。
  - [IMC 証明書 (**IMC certificates**) ] : サードパーティ管理の認証局 (CA) からサーバの証明書と秘密キーを設定します。このオプションは、Intersight 管理モードのサーバでのみ使用できます。
- [アセット タグの設定 (**Set Asset Tags**) ] : カスタム アセット タグを設定できます。

- **[ユーザー ラベルの設定 (Set User Label)]** : カスタム アセット ラベルを設定できます。
- **[システム イベント ログのダウンロード (Download System Event Log)]** : 選択したサーバのシステム イベント ログをダウンロードします。これらのログは、過不足の電圧、温度、ファン イベントなどサーバ関連イベントを記録します。
- **[システム イベント ログのクリア (Clear System Event Log)]** : 選択したサーバのシステム イベント ログをクリアします。
- **[オペレーティング システムのインストール (Install Operating System)]** — シンプルなプロセスで、一元化されたデータセンターから 1 台以上の Cisco UCS C シリーズ スタンドアロンサーバに対して、無人 OS インストールが行えます。
- **[ファームウェアのアップグレード (Upgrade Firmware)]** : ファームウェアのアップグレードを実行します。詳細については、「[ファームウェアのアップグレード](#)」を参照してください。
- **IMC の起動 (Launch IMC)** : Cisco Integrated Management Controller (CIMC) を起動します。このアクションは、C シリーズ スタンドアロン サーバーのみで使用できます。



---

(注) [ローカル ダウンロードのテクニカル サポート データの生成 (*Generate Technical Support Data for Local Download*)] および [ローカルダウンロードへのハードウェアインベントリデータのダウンロード (*Download Hardware Inventory Data to Local Download*)] オプションは、相互起動 CIMC インターフェイスではサポートされていません。

---

- **[仮想 KVM の起動 (Launch Virtual KVM)]** : ファブリック インターコネクト接続およびスタンドアロンサーバの仮想キーボード、ビデオ、およびマウス (KVM) コンソールを直接起動します。エンドポイントおよびサーバへのローカル ネットワーク接続が必要です。
- **[トンネル vKVM の起動 (Launch Tunneled vKVM)]** : トンネル vKVM は、Intersight を介して KVM トラフィックをトンネリングすることによって機能します。Intersight 管理モードのすべてのサーバ、Cisco UCS C シリーズ M4、M5、M6、および M7 サーバ、UCS S シリーズ、および Hyperflex HX シリーズ エッジ スタンドアロン M4 および M5 サーバのトンネル vKVM セッションを起動できます。
- **[TAC ケースを開く (Open TAC Case)]** : ケースを開いて、サーバの問題を報告します。
- **[ライセンス階層の設定 (Set License Tier)]** : サーバを新しいライセンス階層に更新します。ライセンス階層の更新は、関連付けられたサーバプロファイルを持つサーバでは行えません。ライセンス階層を移動するには、選択したサーバからプロファイルの割り当て解除し、割り当てをやり直します。

- **[テクニカル サポート バンドルの収集 (Collect Tech Support Bundle)]** : テクニカル サポートバンドルを収集します。アカウント管理者は、デバイスを選択し、選択したデバイスのテクニカル サポート バンドル ファイルを収集できます。ダウンロードしたファイルには、[管理]>[テクニカル サポート バンドル] セクションに移動してアクセスできます。このファイルは、問題をトラブルシューティングするために TAC チームと共有できます。

### [サーバの一括操作 (Bulk Server Actions)]

[サーバ (Servers)] テーブルページでは、1 台以上のサーバを管理するために、以下の操作を実行できます。

- **[電源 (Power)]**
  - **[電源オン (Power On)]** : 1 台以上のサーバの電源をオンにします。
  - **[電源オフ (Power Off)]** : 1 台以上のサーバの電源をオフにします。
  - **[電源サイクル (Power Cycle)]** : 1 台以上のサーバの電源をオフにしてからオンに戻します。
  - **[ハードリセット (Hard Reset)]** : サーバを再起動します。
  - **[OS のシャットダウン (Shut Down OS)]** : オペレーティング システムでサポートされている場合、サーバをシャットダウンします。
- **[システム (System)]**
  - **[ロケータをオンにする (Turn On Locator)]** : LED ロケータをオンにします。
  - **[ロケータをオフにする (Turn Off Locator)]** : LED ロケータをオフにします。
  - **[CMOS のリセット (Reset CMOS)]** : BIOS 構成設定を元の状態にリセットします。これにより、サーバが正常な状態でない場合の回復に役立ちます。CMOS をリセットするオプションは、サーバの電源がオフの場合にのみ表示されます。リセットを完了するには、サーバの電源をオンにする必要があります。[CMOS のリセット (Reset CMOS)] 確認ウィンドウにあるトグル ボタンを使用して、サーバの電源をオンにする追加オプションがあります。




---

(注) このオプションは、Intersight 管理モードのサーバでのみ使用できます。

---

- **[フロントパネルのロック (Lock Front Panel)]** : サーバの物理的な電源ボタンをロックします。フロントパネルがすでにロックされているサーバの場合、このオプションは **[フロントパネルのロック解除 (Unlock Front Panel)]** と表示されます




---

(注) このオプションは、Intersight 管理モードのサーバでのみ使用できます。

---

- **[シスコ IMC の再起動 (Reboot IMC)]** : Cisco IMC を再起動します。
- **[オペレーティング システムのインストール (Install Operating System)]** — シンプルなプロセスで、一元化されたデータセンターから 1 台以上の Cisco UCS C シリーズ スタンドアロンサーバに対して、無人 OS インストールが行えます。
- **[ファームウェアのアップグレード (Upgrade Firmware)]** : ファームウェアのアップグレードを実行します。
- **[ライセンス階層の設定 (Set License Tier)]** : 1 台以上のサーバを新しいライセンス階層に更新します。ライセンス階層の更新は、関連付けられたサーバプロファイルを持つサーバでは行えません。ライセンス階層を移動するには、選択したサーバからプロファイルの割り当て解除し、割り当てをやり直します。

## サーバインベントリの表示

サーバが検出されると、そのすべてのコンポーネントのインベントリが使用可能になります。**[サーバ (Server)]** テーブルビューでサーバを選択すると、**[インベントリ (Inventory)]** タブでそのコンポーネントのインベントリを表示できます。

選択したサーバについて、次の各コンポーネントの詳細を表示できます。

- **ブート** : サーバに設定されているデバイスの実際のブート順序を確認できます。ブート順序には、デバイス名、デバイスタイプ、ブートモード (レガシーまたは UEFI)、セキュアブートモード (有効または無効) などの設定の詳細が含まれます。ブート順序ポリシーのサーバプロファイルで設定されたデバイスは、サーバのブート時にサーバ BIOS がデバイスを検出しない場合、実際のブート順序に表示されないことがあります。
- **[管理コントローラ (Management Controller)]** : ファームウェアバージョン、アウトバンド管理アクセスの概要、ハードウェアの詳細、およびサーバ証明書の詳細を表示できます。また、証明書セクションから最新のサーバ証明書を表示またはコピーすることもできます。



---

(注) Intersight 管理モード (IMM) での UCS B シリーズ (M5、M6) および X シリーズ (M6、M7) サーバのサーバ証明書操作は、サーバファームウェア 4.2 以降のバージョンでのみサポートされます。ただし、UCS C シリーズ (M5、M6、M7) サーバのサーバファームウェアバージョンに制限はありません。

---

- **[CPU]** : アーキテクチャ、モデル、ソケットの指定、ベンダーなど、プロセッサに関する詳細を表示できます。**[CPU]** を展開すると、各プロセッサのハードウェアとリソースの詳細の状態と概要が表示されます。

- **[Memory]** : メモリカードの場所、ID、容量、クロック速度などのメモリカードの概要を表示できます。**[Memory]** を展開すると、各メモリカードの状態とハードウェアの詳細が表示されます。
- **[Network Adapters]** : ネットワークアダプタカードの詳細（接続先のスロット、モデル、シリアル、ベンダー、接続先のインターフェイスなど）を確認できます。**[ネットワークアダプタ (Network Adapters)]** を展開すると、ファームウェアバージョン、インターフェイスの詳細（DCE/NIC/HBA）、ハードウェアの詳細、および各アダプタに関連するアラームのリストが表示されます。
- **GPU** : GPU のリストを表示できます。GPU を展開すると、各 GPU の一般情報と GPU コントローラ情報を含む GPU インベントリの詳細が表示されます。

- **全般**

- **[メイン (Main)]** : スロット ID、モデル、シリアル番号、ベンダー、GPU の数、およびファームウェアバージョンを表示できます。
- **[PCIe エンクロージャ (PCIe Enclosure)]** : スロット ID、モデル、シリアル番号、およびベンダー情報を表示できます。
- **[GPU コントローラ (GPU Controllers)]** : GPU コントローラ名と PCI アドレス情報を表示できます。

GPU への挿入、削除、または置換操作を含む変更操作では、再検出をトリガーする必要があります。したがって、再検出により、変更を検出し、サーバインベントリを更新できます。

- **[PCIe デバイス (PCIe Devices)]** : PCIe デバイスとそのスロット ID のリストを表示できます。PCIe デバイスを展開すると、各デバイスの構成とハードウェア情報が表示されます。
  - **[構成 (Configuration)]** : デバイスのファームウェアバージョンを表示できます。
  - **[ハードウェア (Hardware)]** : デバイスのスロット ID、製品名、シリアル番号、およびベンダー情報を表示できます。
- **[Storage Controllers]** : ストレージコントローラ、その ID、およびタイプのリストを表示できます。**[Storage Controllers]** を展開すると、各ストレージコントローラのファームウェアバージョンとハードウェアの詳細が表示されます。

次の操作を実行して、1 つ以上のストレージコントローラを管理できます。

- **[Physical Drives]** : 1 台の物理ドライブまたは複数の物理ドライブで、**未設定の良好な** ドライブ状態と **JBOD** ドライブ状態を切り替えることができます。
- **[Virtual Drives]** : 未使用の仮想ドライブを選択して削除し、RAID コントローラの使用済み領域を再利用できます。仮想ドライブを削除すると、ファイルシステム上のすべての情報が破棄され、RAID コントローラから仮想ドライブが削除されます。



(注) これは、Cisco Boot Optimized M.2 RAID コントローラでサポートされている唯一のストレージ操作です。

- **[Import Foreign Configurations]** : 仮想ドライブをインポートし、RAID コントローラ設定に追加します。
- **[Clear Foreign Configurations]** : 物理ドライブまたは仮想ドライブに保存されているすべてのデータをクリアまたは消去します。
- **[TPM]** により、要求されたサーバのデータおよびハードウェアコンポーネントを保護できます。TPM では、キー識別子の状態とハードウェアの詳細の概要を表示することもできます。

サーバー インベントリ ビューの右隅にある **[アクション (Actions)]** ボタンから **[TPM のクリア (Clear TPM)]** オプションを使用して、TPM 構成をクリアまたはリセットすることもできます。

**[注意 : (Caution:)]**

**[TPM のクリア (Clear TPM)]** は、災害復旧とデータ損失の操作を目的としています。必要な場合以外は使用しないでください。

**[TPM のクリア (Clear TPM)]** アクションを使用する前に、次のことを確認する必要があります。

- サーバー プロファイルが構成されています。
- オペレーティング システムがインストールされています。
- サーバーが電源オフ状態です。



(注) TPM のクリア アクションは、Cisco UCS B シリーズおよび C シリーズ M5 以降のサーバーとファームウェアバージョン 4.2 (2a) 以降でのみサポートされます。

TPM の次のコンポーネントを表示できます。

- キー識別子
  - **[アクティブ化ステータス (Activation Status)]** : TPM がアクティブ化/非アクティブ化状態にあることを示します。TPM 構成がクリア/リセットされると、アクティブ化ステータスは非アクティブと表示されます。
  - **[有効状態 (Enabled State)]** - TPM が有効/無効状態であることを示します。TPM 構成がクリア/リセットされると、有効状態は無効と表示されます。
- ハードウェア

- **[所有権 (Ownership)]**—所有権のステータスを所有/未所有として表示します。TPM 構成がクリア/リセットされると、所有権の状態は未所有と表示されます。いつでも所有権を取り戻すには、電源サイクルサーバーのスイッチを入れる必要があります。



(注) このプロパティは、TPM 1.2 バージョンでのみ表示できます。2.0 の場合、アクティベーションステータス、有効状態、および所有権ステータスをオペレーティング システムで表示できます。

- バージョン
- モデル
- ベンダー
- シリアル
- ファームウェアバージョン



(注) このプロパティは、TPM 2.0 バージョンでのみ表示できます。

## ハードウェア互換性リスト (HCL) との準拠

Cisco Intersight は、ファームウェア、サーバーモデル、プロセッサ、アダプタ、オペレーティングシステム、およびドライババージョンの検証されていない組み合わせを実行することでサービスに生じる問題の影響を評価し、軽減します。Intersight では、ハードウェアとソフトウェアがシスコまたはシスコパートナーによって検証済みであるかどうかを確認するため、Cisco UCS システム、HyperFlex システム、Intersight Managed Mode (IMM) サーバ、および Cisco UCS S シリーズ サーバの互換性を評価します。Cisco Intersight は、サーバ モデル、プロセッサ、ファームウェア、アダプタ、OS、およびドライバの互換性を確認後、検証の問題を報告し、ハードウェア互換性リスト (HCL) へのコンプライアンス ステータスを表示します。この機能には、**Cisco Intersight Essentials** 以上の来世巢が必要です。

Cisco UCS ツール、ホストユーティリティの vSphere インストールバンドル (VIB)、または OS 検出ツール、オープン ソース スクリプトを使用して、OS およびドライバ情報を収集し、HCL へのコンプライアンスを評価します。ハードウェア互換性ステータスの詳細、Cisco UCS ツールをダウンロードする方法の詳細な説明と手順、および OS ディスカバリツールの使用方法については、リソースの [Compliance with Hardware Compatibility List \(HCL\)](#) を参照してください。



## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。